

平成 22 年度第 2 回都道府県地域がん診療連携拠点病院および東京都認定がん診療病院研修会(放射線技師等)の報告

癌研有明病院 放射線部治療チーム 佐藤智春

- 開催日時：平成 23 年 2 月 5 日（土） 9:50～16:00
- 開催場所：癌研究会研究所 1 階 吉田講堂
- 目的：放射線治療計画装置（以下、RTPS）の計算アルゴリズムの基礎および使用に当たっての注意事項を習得し、安全かつ適切に治療計画装置を扱うことができるようになる。
- 参加者： 34 施設 102 名（拠点病院以外の近隣の 4 施設 8 名を含む）
- プログラム：

9:50～10:00 開会の挨拶

10:00～11:20 RTPS 線量計算アルゴリズムの進歩

大阪大学医学部 高橋 豊 先生

11:20～12:40 代表的な RTPS 線量計算アルゴリズム

大阪大学医学部 隅田 伊織 先生

12:40～13:20 昼食（お弁当付）と休憩

13:20～14:20 ランチョンセミナー

RTPS を用いる際の注意事項 — メーカーの立場から —

(株)ヴァリアンメディカルシステムズ 神田 哲弥 先生

14:30～15:50 治療計画を行う上での注意すべきポイント

(財) 癌研有明病院 放射線部治療チーム 吉岡 稔 先生

15:50～16:00 閉会の辞

- アンケートの結果：回収率 91%（93 人／102 人）
 1. 放射線技師の経験年数は 10 年以上が約 6 割（59%）を占め、前回と同様、受講者は中堅以上であった。
 2. 放射線治療の経験年数は、3 年未満の初心者が 37%、3～10 年の中堅が 39%、10 年以上のベテランは 25%であった。前回は、3 年未満の初心者および 3～10 年の中堅が各々 44%、10 年以上のベテランは 12%であり、今回は、初心者や中堅の割合が減り、10 年以上のベテランの割合が多くなった。
 3. 放射線治療関係の学会入会率は、日本放射線腫瘍学会 57%、日本放射線技術学会

治療分科会 51%となり、前回（腫瘍学会 51%、分科会 48%）と比べて放射線治療関連学会の入会率は若干上がったが、以前半分程度であった。なお、日本放射線技術学会の入会率は 84%（前回 84%）であり、治療に特化せず学術に関する意欲はあるようである。

4. 各講義内容について、ほとんどの受講生が理解できた（講義順に 88%, 91%, 87%, 97%）と答えており、本研修会の目的は達成できたと考える。
5. 現在 IMRT を行っている施設からの参加者は 58%、今後行う予定がある施設の参加者を含めると 71%であった。また、本研修会で IMRT に講義を希望しない参加者はわずか 6%（6 人）であり、次年度以降、予定している IMRT をテーマにした研修会を行う意義は高いと思われる。

➤ 受講生の意見と要望（18 件）

- 1) わかりやすく講義していただき大変勉強になった（8 件）
- 2) 今後も基礎的な内容を続けてほしい（4 件）
- 3) ぜひ IMRT を取り上げてほしい（3 件）
- 4) 臨床医的な内容をお願いしたい（2 件）
- 5) 高度な技術を学ぶだけでなく事故のない治療を行う方法を取り上げてほしい（1 件）
- 6) SRT を取り上げてほしい（1 件）

➤ なお、今回のアンケートを踏まえ、次年度から 3 年連続で IMRT のテーマをメインにした研修会を行いながらも、毎回 IMRT とは別に基礎的な講義を組み込んで行こうと思う。

➤ 次年度以降の予定

1. 平成 23 年 8 月 6 日 IMRT を導入するにあたり必要な事項（必要な機器・装置の精度と QA・治療計画装置のコミッショニング） 基礎講座（ゼロから始めよう MU 計算）
2. 平成 24 年 2 月 IMRT の治療計画（前立腺・頭頸部など）
3. 平成 24 年 7 月 IMRT の検証（評価点線量と線量分布の測定）
4. 平成 25 年 2 月 IMRT の照合方法と IGRT
5. 平成 26 年 7 月 IMRT の臨床的なお話（対象疾患と治療効果・毒性など）
6. 平成 27 年 2 月 強度変調回転照射の治療計画・検証・装置の QA（または、がん拠点施設による IMRT のシンポジウム）

以上